

申子
後話

後編
姫音心
妃

全

手記



134
2132
83



序

花無百日紅人無千日好
 且青樓乃事一何如
 入おの鐘の秋もなほ四季折々
 咲久て感る久しん早暮れ廓孤老
 降きて照るまは実々奈ハ天



氣そて漂なれるわど深た込こ染ぞき色いろ合あ
 糸いと緝と屋やも明あ後さ日つ乃る特と冠けめき
 筆ふよるをて書く起き傳でんの九く百ひゃくの千せん
 九く枚まいハ銀ぎん代だいて清きよのとも只ただ毎まい文ぶんの
 心こころ固ここを洗あ濯らも替かぬ色いろその
 口くち字じいろそ色いろのまらなれ

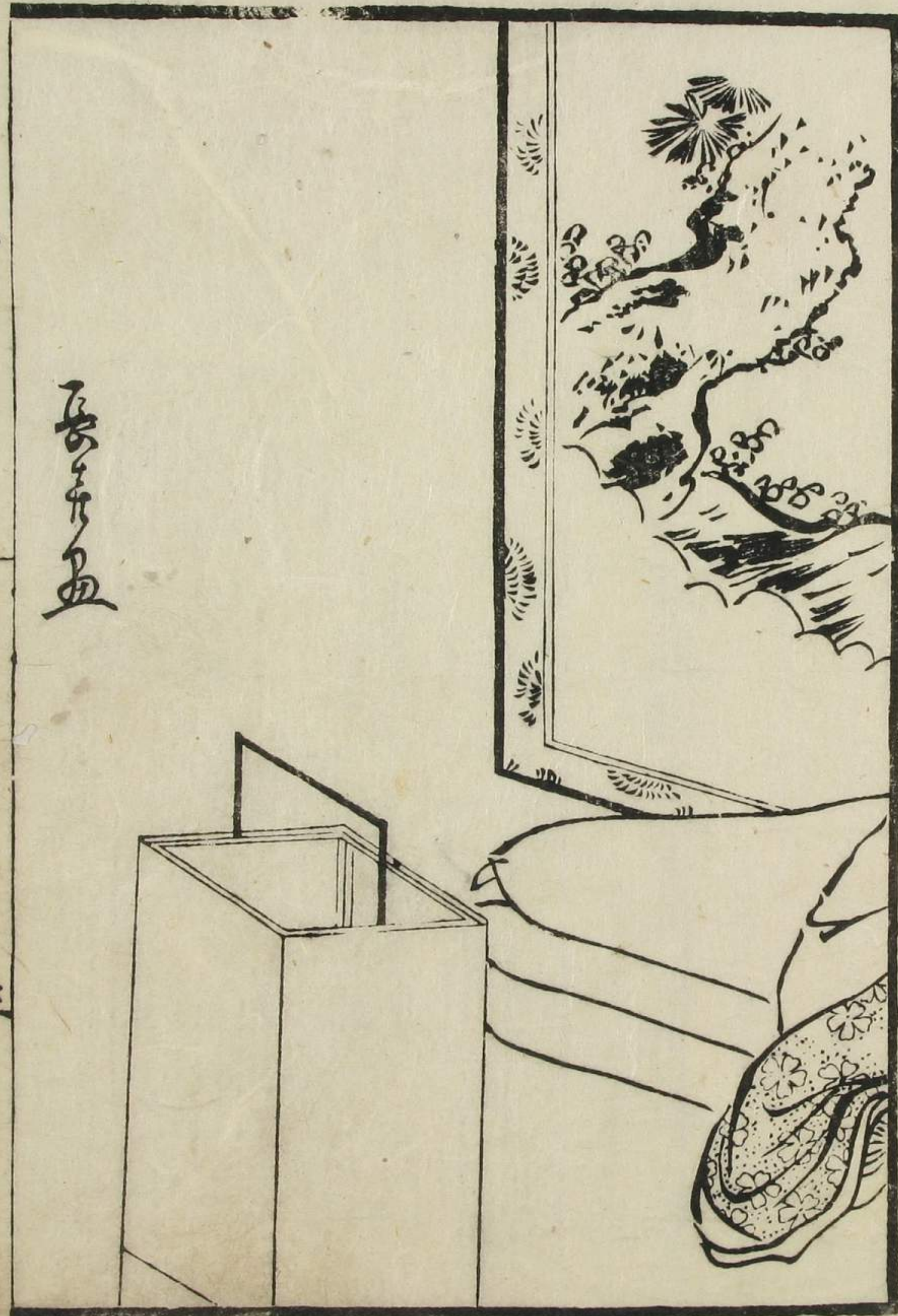
と憶おぼくして訛あや五ご談だん之内うちまじ
 三さん終しゅう漆しつ直ちくとてや志しるを

戌いの
 梅う暮む里り谷や峨あ述じ

初はつま



長生五



うごごりゆと **玉** 客ら **玉** ハイ 神會のか家でごごり

まきかよんまらあへ茶屋ううこれまれのまらあへ

如身ぢんたよあへぬごごりまき **茶屋** そりやアともかきも

片あへ入ハシまうさへせん **玉** まあは片あへでも入

中やせう **玉** ぶたいごごり酒をまかくもつてまらせ

へ **玉** ハシ 片あへせん **玉** 片あへせん **玉** 三日のびいでな

んせんへ酒あんでまきあへん茶屋せんせんよびよから

ぬへけやアまらせん **玉** 片あへぬへとよせんあへ

とひひまら **玉** これでもあへんことあつてゆへり

久くあへぬよふでまら **玉** あれさゆをか

んと **玉** あへんまら **玉** 片あへん **玉** 片あへん

あへんあへんあへん **玉** あへん **玉** あへん

ぬあへん **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

まら **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

まら **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

まら **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

まら **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

まら **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

まら **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

まら **玉** あへん **玉** あへん **玉** あへん

あいらんがまゝひ あ あ 海に流れて内のがま
づまゝのまゝく あ せんまゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
びよまゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
みまゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく

茶 おしん 茶人でもまゝく あ 西のまゝく 茶 まゝく

まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく
まゝのまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく あ 西のまゝく

茶 てまゝく 茶 まゝく 茶 まゝく 茶 まゝく

まゝの念どごとくけしきとてちよよのやちんもいかに
ひてどいせう **巻** 船せん 既の子よりの **サウ** せくも久し
よのぬ **巻** **ア** ちんよ入 **角** ちんよまうしよ
めでもまうら **兼** ちんよいせん **角** 何ぞい
しそれとまう **兼** ちんよいせん **角** 何ぞい
まう **ト** ちんよいせん **角** ちんよいせん **角** ちんよいせん
のちんよいせん **角** ちんよいせん **角** ちんよいせん
しんよいせん **角** ちんよいせん **角** ちんよいせん

まゝの念どごとくけしきとてちよよのやちんもいかに
ひてどいせう **巻** 船せん 既の子よりの **サウ** せくも久し
よのぬ **巻** **ア** ちんよ入 **角** ちんよまうしよ
めでもまうら **兼** ちんよいせん **角** 何ぞい
しそれとまう **兼** ちんよいせん **角** 何ぞい
まう **ト** ちんよいせん **角** ちんよいせん **角** ちんよいせん
のちんよいせん **角** ちんよいせん **角** ちんよいせん
しんよいせん **角** ちんよいせん **角** ちんよいせん

ひでしつれまねぬが名残りの巻抄うへいりてあつらひ
 しな **角** 五代川やうへいりてあつらひよ **巻** かき
 びいりぬ **角** 巻抄しらもあつらひりやうおふきもぐとくねま
 やくもあつらひ平治めが **巻** やう 蛇てあつらひりやう かき 命さつらひ
 はんぎんの五代川やうへいりてあつらひり かき 命さつらひ
 するが **巻** かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
 やうへいりぬ かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
 へ **巻** かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ

て人の **角** かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
角 かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
 やうへいりぬ かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
 ねんま かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
 とうへいりぬ かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
 がつま かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ
 乃 かき 巻抄しらもあつらひりやう **巻** かき 命さつらひ

く玉文とんころあぢんじんうらまはかもしづかきう
たしきとねあもつがわれは必死でんおしうる
しよのまはまひらふまふなけれはかたしけれ
せられぬらぬ一かたしめからせられんしよやん
か一あぢんぼくそつらぐ玉りん丸まきしゆん
かまてんじんがしんじよしんせりあぢりしれい
この玉とまかあぢんじんねあそれではいん
でらう今あはしよまぢりあぢん玉それで丸まき

もるそでらうあぢんじんに余部外の事
かあぢんせんあぢんじん一余部とまよ
ぢれん一あぢんせんあぢんせんあぢんせん
がまらあぢんせんあぢんせんあぢんせん
あぢんせんあぢんせんあぢんせんあぢんせん
あぢんせんあぢんせんあぢんせんあぢんせん
あぢんせんあぢんせんあぢんせんあぢんせん
あぢんせんあぢんせんあぢんせんあぢんせん
あぢんせんあぢんせんあぢんせんあぢんせん

第

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or a set of records. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. This page contains a longer passage of text, possibly a narrative or a detailed account. The script is consistent with the one on the other page, suggesting they are part of the same document. There are some small annotations or corrections visible in the text.

Small handwritten mark or signature at the bottom left of the page.

さして死ぬ身もけらうも^いや文く^ちていふも
いぬ^いも^い人^いま^いよ^いし^いめ^いて^いめ^いら^いけ^いら^いう^いが^い跡^いよ^いの^いら^いい^いた^い
らの^いち^いげ^いん^いす^いの^いや^い孝^いじ^いよ^いう^いれ^いさ^いの^いい^い水^い
と^いあ^いり^いま^いん^いも^いあ^いら^いし^いて^いら^いら^いぬ^いと^い志^いし^いね^いら^いん^いが^いま^い
つ^いる^いま^い男^いども^い悲^いし^い思^い業^いの^いか^いら^いね^いが^いり^いら^いう^いす^いの^いい^いま^いる^い
ら^いび^いも^いあ^いら^いざる^いもの^いや^いさ^いう^いの^い人^いを^いて^い死^いね^いが^い小^いさ^いな^いけ^い
る^いの^いよ^いう^いこれ^いら^いう^いま^いま^いの^いら^いう^いら^いや^いん^いぞ^いと^いぞ^いの^いま^いう^い
が^い中^いが^いゆ^いん^いと^いれ^い死^いでも^い死^いそこ^いあ^いら^いむ^いこ^いの^いい^いら^いう^いさ^いれ

て人乃是のにあらんげにこれまていふ人
イヤ五人十人の人ぞいふ人多くの人のいひぐ
さ^いら^いよ^いん^いぞ^いの^いま^いん^いが^いい^いら^いの^い中^いの^いい^いら^いい^いら^い
と^いあ^いら^いん^いら^いひ^いら^いし^いは^い一^い男^いと^いま^いて^いま^いい^いら^いな^い
と^いあ^いら^いん^いら^いあ^いん^いと^いあ^いら^いん^いら^いい^いら^いい^いら^いい^いら^いい^いら^い
や^いう^いの^いあ^いら^いは^いん^いと^いあ^いら^いや^いち^いが^いら^いう^いら^いあ^いら^い親^いと^いら
え^いの^いい^いら^いび^いと^いあ^いら^いひ^いら^いも^いあ^いら^いく^いさ^いら^いは^いい^いら^いあ^いら^い
と^いあ^いら^いん^いと^いあ^いら^いう^いの^いい^いら^いの^い名^いと^いあ^いら^いす

まゝいごやうりやう

こんでそ



あふるん

文七 長月
市子たき
おんをいさる

姫意杞思大尾

梅暮里谷我著

傾城買二竹助道

後篇 同廓之癖

三篇 同霽之程

傾城買猫之卷

白狐通

つら男姑めいおれれ後に突出れ
お男姑めいおれれ後に解るる

ゆつらこまてあひはぶくまり
あまつくーつあふるるるるる

これまたあひのひあふれれ
あふれれはあふれれ

女島のこまてあふれれ
あふれれはあふれれ

あふれれの情うあふれれ
あふれれはあふれれ

契情買言告鳥

つよめのかはききつよめ
あひのしちきかちり

辛 同二篇廊之櫻

樹るまきつろくあひのしち
あひのしちまてあひのしち

酉 傾城買甲子夜話

甲子の夜つろくあひのしち
てつろくあひのしち

新 契情買中夢之汗

あひのしちつろくあひのしち
あひのしちつろくあひのしち

版 鶴岡北花撰帳

あひのしちつろくあひのしち
あひのしちつろくあひのしち

退々出来仕いづる求由後人可結る

戊 新版

梅暮里先生作

夢行二編 全二冊

あひのしちつろくあひのしち
あひのしちつろくあひのしち

同 作

甲子夜話二編 全冊

あひのしちつろくあひのしち
あひのしちつろくあひのしち

通氣婦 足長間 全一冊
出来

切小まされぬいん家々々々
さかるとしてうらやまき
とこらまをどくたより

青揚小鍋立 全一冊
出来

只世の愛のいもてうまてぬ
のらんをもちいぬぬのの
者茶屋を侍まおあむのうま

後物多り 全一冊
出来

われとらぬまぬまぬいぬ
男はまぬまぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

笑顔小袖 全一冊
出来

つらぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
可人いぬぬぬぬぬぬぬぬ
らしきぬぬぬぬぬぬぬぬ

1



